

大魔術術師ポんちゃん

作・演出 藤原玄洋

でてくるもの

ポんちゃん

トコロ

ポンたち

ワニ

司会

スタッフ

作 藤原玄洋

演出

演出助手

演出記録

舞台監督

舞台美術

人形美術

音楽

音響効果

制作

——舞台中央に、ケコミ。

下手より、司会登場。

司会 おはようございます。私たちは、ムジカで人形劇を勉強しています。これから、「大魔術師ポンちゃん」の人形劇をごらんいただきます。

では、早速、ポンちゃんをご紹介いたしましょう。

魔術師ポンちゃん、どーぞ。(間)

魔術師ポンちゃん、どーぞ。(間)

どうしたのかしら？ (ケコミの中をのぞく) あら？ ポンちゃん、こんなところで、寝てちゃってるわ。(ポンちゃんをケコミの上に出す)

——ポンちゃんケコミ中央で寝ている。

ポン グー、グーグー……。

司会 ポンちゃん、起きて。お客さんが、お待ちかねよ！

ポン グー、グーグー……。

司会 ポンちゃん、起きて。手品、やってくれるんじゃないの？

ポン うーん、うるさいなあ。

司会 うるさいじゃないわよ。早く起きて！ (ゆずぶる)

ポン うーん、うるさいなあ。

司会 ポンちゃん、起きて。手品、やってくれるんじゃないの？
だって、眠いんだもん。

司会 しっかりしてよ。ポンちゃん。(立たせる)

ポン せっかく、いい気持ちで寝てたのに……。あつ、あーあ。(あくびをする)

司会 ポンちゃん、皆さんに、ごあいさつして。

ポン ごあいさつ？ めんどくさいなあ。

司会 ほら、ちゃんと、ごあいさつできるでしょう？

ポン やればいいんでしょう？ やれば！ いただきます。

司会 いただきます？ なんか、食べてる夢でも見たの？ 朝だから、おはようございますですよ。

ポン わかった、わかった。うるさいなあ。やれば、いいんでしょう？ みなさん、おはようございます。ボクは、大魔術師のポンちゃんです。

司会 そうそう、その調子。じゃ、たのんだわよ。

——司会、下手に退場。

ポン あー、うるさかった。あんなに、ガミガミいわれちゃ、耳が、こわれちゃうよ。

えへん。大変、お待たせいたしました。これより、大魔術師ポ
ンちゃんによります、手品をごらんいただきましょう。

——音楽。

ケコミから、箱を取り出す。

ポン えっへん！ ここに取りいただきました箱、種も仕掛けもござい
ません。（観客に、箱の中を見せる）

ポン （箱のフチを棒でたたくアダブカダブラー、えいつ。

——効果音。

花束が出る。

ポン （箱のフチを棒でたたくなんか、疑いのまなざしー。ほら、このと
おり、種も仕掛けもございませぬ。えっへん！

——箱の中を見せて、元の位置に置く。

ポン （箱のフチを棒でたたくアダブカダブラー、えいつ。

——効果音。

ヒヨコが出る。

ヒヨコ ヒヨ、ピヨ。（ケコミの上を歩き回る）

ポン （ヒヨコを、つかまえる）はい、ご苦労さん。（箱の中に入れる）

ヒヨコ （箱から、出てくる）ピヨ、ピヨ。（ケコミの上を歩き回る）

ポン ヒヨコさん、もういいの。（ヒヨコをつかまえ、箱の中に入れ、つづいて、
箱のフチを棒でたたくアダブカダブラー、えいつ。はい、ご苦労さん
でした。

ヒヨコ （箱から、出てくる）ピヨ、ピヨ。（ケコミの上を歩き回る）

ポン （ヒヨコを、おいかけ）待て、まて！ ヒヨコさん、ご苦労さん。

ヒヨコ ピヨ、ピヨ。（ケコミの上を逃げ回る）

——ポンちゃん、ヒヨコを追いかけるが、捕まえられない。

ポン （ケコミ中央で）困ったなあ。よし、わかった。ボクは、なんて頭

がいいんだらう。(箱のフチを棒でたたくアダブカダブラー、えいつ。

——もう一人のポンちゃん、出てくる。

ポン (効果音とともに、もう一人のポンちゃんに、棒を振りかざし)あのヒヨコを、捕まえてくれ！ やさしくやるんだぞ。大事な商売道具だ。こわしちやダメだぞ。

——二人のポンちゃん、ヒヨコを追いかけるが、なかなか捕まえられない。アドリブで。

ポン 待て、まて！ ヒヨコさん、おとなしくしなさい。

——二人ではさみうちにしたりするが、捕まえられない。

ポン もっと、出してやる。(箱のフチを棒でたたくアダブカダブラー、えいつ。アダブカダブラー、えいつ。アダブカダブラー、えいつ。(箱のフチを棒でたたいて、呪文をかけ、効果音とともに、次つき、分身のポンちゃんを出す)

——たくさんのポンちゃん、ヒヨコを追いかけ、大騒ぎになる。

ポン よーし、ボクは、怒ったぞ。(箱のフチを棒でたたくアダブカダブ

ラー、えーいつ。

——大きな、効果音。

大きなワニが出てくる。

ワニ ガオー！

——大きな、効果音とともに、ワニがポンちゃんたちを追いかけ回す。箱を、吹っ飛ばす。

ポン わー、たすけてー。たすけてー。

——ワニは、ますます、勢いづいて、追いかけて回す。(アドリブで)

ポン たすけてー。たすけてー。ごめんなさい、もう、怒ったりしないから、ワニさん箱の中に戻ってよー。おねーえさーん、たすけてえ！

——司会、下手より、登場。

司会 どうしたの？ ポンちゃん。大騒ぎなんだから。

ポン おっ、お姉さんー、ボクが、呪文かけたら、ワニが出てきちゃってー、わあー、食べられちゃうよう。たすけてよお。

司会 (箱を拾い上げて、次つぎ箱に戻す。ワニが最後)「いっしょ、ほらほら、箱に戻って。」

——ポンちゃん、ケコミ中で伸びている。

司会、ポンちゃんを抱くようにして。

司会 これで、私たちの人形劇はおしまいです。ありがとうございました。しました。

——司会と、ポンちゃん、下手に退場。

——おわり——

2009年、ムジカ音楽・教育・文化研究所の人形劇講座の発表会のために、できるだけ、あり物を使って演じるために作った人形劇です。

司会は人形でなく、ケコミの前に立った人間で演じます。

人形劇ですから、箱の底に穴を空けておけば、何でも出すことができます。ただ、箱の中を見せるので、開閉式の底板は作っておく必要があります。

たくさん物を出しますので、すでに作った人形や、小道具を使うように、台本を書き直してもかまいませんから、楽しくやってみてください。

2017年 藤原玄洋